

7月と8月は、日本はお盆の月でございます。

妙智會は、7月にうら盆をさせて頂いておりまして、うら盆の時に先祖、そして戦没者の方の供養もさせて頂いております。

先ほどご祈願とお経を上げていた時に、今日指導する内容を会主さまから頂戴いたしました。

それは「流産児の供養」についてです。

妙智會は先祖供養の教えですけれども、会主さまが大変流産児さまをご心配され、先祖の供養と共に流産児供養もしっかりと行っていかなければならないとの事で、婦人部での流産児供養会ができたわけです。

しかしながら私たちはそういうご指導を頂くと、供養をしないと大変な事が起きてしまうという事にしか気持ちがいかなくなってしまう。

そのような取り方を改めて頂き、妙智會は先祖供養と共に流産児供養を大きな修行として掲げ、しっかりとさせて頂きます。

また、「流産児供養会は婦人部の修行」という捉え方を改めなければいけません。男性がいなければ流産児はできません。

男子部の方も、更には青年部や少年部の方、信者さん皆で一緒に流産児供養をしていく事がとても大切です。

先祖も含めて私たちは流産児がいらっしゃらないとは絶対に言い切れないのです。女性でも気付かないまま流産してしまう事もあります。

戦没者の方の中にも、いろんな事情があつてたくさんの流産児がいらっしゃいます。

ですから、戦没者の供養と共に流産児の供養も合わせてさせて

頂く事は、とても意味が深いのです。

今日の私の話をしっかりと受け止めて頂いて、先祖、戦没者、流産児供養をまずは7月14日のうら盆供養でさせていただきます。

そして日々、先祖、戦没者、流産児を忘れないようにし、男性の方は女性だけの責任にしない様に改め、流産児の供養もして頂く様お願い致します。